

たけら

TAKUSUI
No. 733

11
November 2017

発行 (一財)兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



柴山漁港でのカニ選別作業 (香美町)

水産関連の表彰・受賞 発表 日本海 松葉ガニ漁 はじまる

《今月の海上安全標語》～ 救命合羽 桜マーク (型式認証) 取得 ～
浮力合羽が桜マーク (型式認証) を取得し 救命合羽へ! ぜひお試しを

^{かっぱ}
救命合羽 「結構ええやん!」 つけてみて

事故が続いております。LJ着用し、常時適切な見張りをお願いします。

ようこそ

「ずっと真つ直ぐに」

(「ようこそ」は航海用語で「宜しく候」の意。主に船を直進させるとききの号令として使われる)

見えない絆で助け船 ～これからの新協同組合論～

兵庫県漁業協同組合連合会 石油部部長 熊谷 成雄



毎年年末近くなると青森県大間でのマグロ一本釣り漁の様子がテレビから流れてきます。その漁で、高齢漁師が自分の体以上あるマグロをヒットさせた様子が映し出されていました。今にも海に引きずり込まれそうで、まるでマグロが漁師を釣ったかのように、どう見ても高齢漁師一人では引き揚げられないと思っていた瞬間、一隻の漁船が近づき、若い漁師が船に飛び移り、マグロの掛かったテグスを受け取り、慣れた手つきで船上にマグロを引き揚げ、去っていきました。

マグロ漁期、大間の海で見かけられるいわゆる「助け船」です。この映像を見た瞬間、これぞ「協同」の原点であると感動しました。

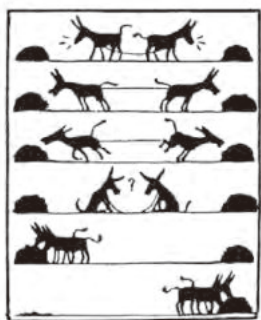
物資があふれ、世知辛い時代でも、海、そして水産人の心の中には、見えない絆によって「協同」が自然な型で受け継がれています。

これからは、型にはまった「協同」だけでなく、時代に適合し、継承していける新しい協同組合論も考えながら、協同購買事業を推進させていきたいです。

Cooperation①

昔からの協同組合

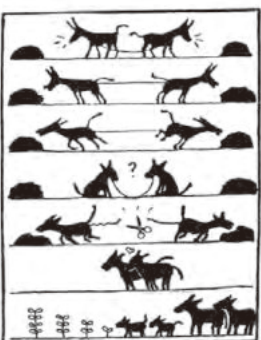
物資(食物)が不足した時代
種類・量 ⇨ 選択肢は少ない
手に入れる(食べる)事が優先
少なくとも食べれば良かった
組合員から湧き上がる協同!!
食べつくされるエサ⇨時代継承



Cooperation②

これからの新協同組合

新しい協同は自分たちで創る
束縛・強制の協同⇨自ら進んで
好み・個人差 ⇨ あって当然!
見えない絆 ⇨ 柔軟に協同活動
新しいエサ作り⇨新たな考え方
生き方豊かに ⇨ 継続する協同



CONTENTS

No.733 November. 2017

- 2 ようこそ
- 3 2017年度 漁協運動功労者表彰
大日本水産会 平成29年度 水産功績者決定
- 4 漁船安全対策の優良取組を水産庁が表彰
全国豊かな海づくり大会 功績団体表彰
- 5 第37回 全国豊かな海づくり大会 福岡大会
松葉ガニ漁 解禁
- 6 摂播漁青連 今年も関学生協祭へ
ときはいま
コンサートパフォーマンスに明石市5漁協の組合長ら出演
- 7 淡路水交会の「漁業者による森づくり」
「救命合羽」の販売開始
- 8 大輪田塾だより
- 9 兵庫JCC通信
- 10 旬に想う
神戸海上保安部航行安全課からのお知らせ



表紙の言葉

「柴山漁港でのカニ選別作業」(香美町)

但馬の冬の味覚の代表である松葉ガニ。11月6日よいよ解禁となりました。

画像は漁場から帰港しメスの松葉ガニ「セコガニ」を選別しているところです。

松葉ガニは但馬地域経済の重要な海産物で、漁業関係者のみならず、カニに関係する人々が今後の漁模様に期待を寄せています。

2017年度漁協運動功労者表彰 JF但馬村瀬組合長が受章



村瀬 晴好氏

JF但馬 代表理事組合長
JF兵庫漁連 理事
JFなごさ信漁連 経営管理委員
(旧) JF兵庫信漁連 (前) 副会長理事

JF全漁連(岸 宏会長)は、9月25日に2017年度(第32回)漁協運動功労者の35人を発表しました。本県からは、JF但馬代表理事組合長である村瀬晴好氏が多くの功績を認められ受章されました。表彰式は11月22日に東京で行われます。

心よりお慶び申し上げますとともに、今後ますますのご健勝とご活躍を祈念いたします。



大日本水産会の平成29年度水産功績者が決定

～兵庫からは秋武 宏氏(前JF兵庫信漁連会長)が受賞～

大日本水産会(白須 敏朗会長)は、10月16日(月)開催の第2回水産功績者表彰委員会において、平成29年度の水産功績受賞者40名を決定し、発表しました。

兵庫からは、水産業の振興と発展に功績があった秋武宏氏(元JF兵庫信漁連(現なごさ信漁連)代表理事会長)が選ばれました。

表彰式は、12月1日(金)に東京で開催され、農林水産大臣・水産庁長官が臨席し行われる予定です。

心よりお慶び申し上げますとともに、今後益々のご健勝とご活躍を祈念いたします。



秋武 宏氏

(元JF兵庫信漁連(なごさ信漁連)代表理事会長)

漁船安全対策の優良取組を水産庁が表彰

（JF高砂）

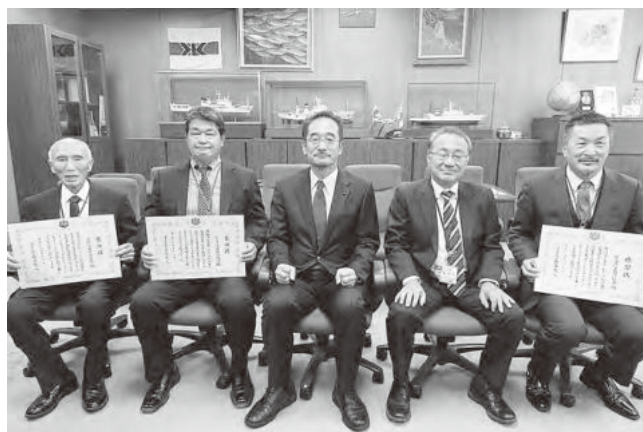
水産庁では、去る10月20日、水産庁長官室において、平成29年度における「漁船の安全対策に関する優良な取組みに対する表彰」の表彰式が行われました。全国各地の3JFが表彰され、本県からはJF高砂の松本力組合長が出席し、長谷成人長官より表彰状を受け取りました。

この制度は、漁業者の安全に関する意識の向上と取組みの推進を促進し、重大な事故を減らすことを目的に平成28年度より実施されているものです。JF高砂では、32年前より高砂市内のJFで組織する市漁連主催による「海難防止講習会」を毎年開催し、安全対策の意識啓発を図るほか、平成23年より取組んでいるライフガイドレディースによるライフジャケット着用推進などに取り組んでいます。

この表彰は、安全対策などの取組みが3年以上継続し、死者・行方不明者が3年以上発生していない団体に贈られ、今回、3団体に贈られた賞は「ブロンズ賞」で、これを受賞後、同様の取組みを2年以上継続すれば「シルバー賞」、さらに2年以上継続すれば「ゴールド賞」が授与されることとなっています。

表彰式で、長谷長官は「今後も、引き続き、取り

表彰状を受け取るJF高砂：松本力組合長
(画像提供：JF全漁連)



(画像提供：JF全漁連)

組みを継続していただき、2年後、4年後の表彰式にぜひ来て貰いたい。」と、今後の取組みへのさらなる期待を述べられました。

表彰式に引き続き、大日本水産学会議室で開催された「漁業労働環境力イゼン対策会議」において、優良事例報告を行ったJF高砂の松本組合長は、「安全対策に近道はない。地道な取組みの積み重ねであり、終わりはない。今後も海難事故ゼロに向けて取組みを続けていきたい。」と決意を述べられました。

なお、JF高砂以外の受賞団体は、JF宗谷(北海道)並びにJFいと(静岡県)。

全国豊かな海づくり大会 功績団体表彰 漁場・環境保全部門にてJF兵庫が受賞

10月29日、第37回全国豊かな海づくり大会において功績表彰が行われ、「兵庫運河の自然を再生するプロジェクト」が漁場・環境保全部門の水産庁長官賞に選ばれ、団体を代表してJF兵庫の糸谷安一組合長が表彰状を受け取りました。

このプロジェクトは、2015年に兵庫県より「ひょうごの生物多様性保全プロジェクト」として認定され、JF兵庫、兵庫運河を美しくする会、兵庫運河真珠貝プロジェクト、兵庫水辺ネットワーク、神戸市立浜山小学校など多くの団体・企業で活動しており、運河の清掃活動、アサリの育成実験やヒラメ・アサリ稚貝・クルマエビの放流など兵庫運河の水質浄化や運河水質に関する知識や情報提供などを行っています。

また、表彰前日28日にはレセプションが行われ、糸谷組合長は「兵庫県の神戸、大阪湾から生物多様化をはかり瀬戸内海再生

を実現できるよう努力します。若い世代が海を守る」と頑張っています。」と話され、天皇・皇后両陛下から「頑張ってください。」とのお言葉を頂戴しました。



表彰状を受け取るJF兵庫：糸谷組合長 (画像提供：JF全漁連)

第37回 全国豊かな海づくり大会 福岡大会 ～テーマは「育もう 海人 地域 みんなの未来」～



天皇・皇后両陛下ご臨席のもと開催されました
(画像提供: JF全漁連)

10月28日(土)、29日(日)の両日、「第37回全国豊かな海づくり大会 福岡大会」が福岡県宗像市で開催され、同大会に併せた物産販売、企画展示、体験コーナーなどの関連行事も含め、約9万人の来場がありました。

式典は29日に宗像ユリックスで行われ、会場には天皇・皇后両陛下をはじめ、全国の水産関係者が出席しました。式典では、大島理事大会会長(衆院議長)が「福岡県で行われている資源管理型漁業や栽培漁業を推進するとともに漁場環境保全、水産物消費拡大などは我が国水産業の活性化や自然環境保全にとって大変意義深いもの。自然の恵みを将来へ享受できるように尽力していただきたい」と挨拶され、小川洋福岡県知事は「今大会を契機に川や

河川、水源地域の環境保全の大切さを、未来を担う子供たちにしっかりと繋いでいきたい」と述べられました。

功績団体表彰が行われたあと、大会会長賞受賞代表者として最優秀作文を書いた宗像市立東郷小学校2年生野田光輝さんが「ぼくのたいせつな海や川」を読み上げた。その後、両陛下から漁業後継者へのトラフグ・クロアワビなどの稚魚が入ったお手渡しが行われた。

その後行われた大会決議採択では、岸宏大会推進委員長(JF全漁連会長)が大会決議を朗読し満場の拍手をもって採択され、最後に小川福岡県知事から次期開催地の尾崎正直高知県知事へ大会旗が引き継がれ終了しました。



両陛下お手渡しの様子(画像提供: JF全漁連)

松葉ガニ漁解禁!!

〜1匹108万円の過去最高値も〜



わうなど、各浜は初水揚げに活気づきました。

初日の但馬地区全体での水揚げ量は、オスガニ、メスガニともに昨年を上回る前年比約108%、水揚げ金額は前年比約89%の約1億3千7百万円となりました。

この漁の操業は3月20日まで行われますが、資源保護の取り組みとしてメスガニ(セコガニ)は12月31日まで、若マツバガニ(ミズガニ)は1月20日から2月28日までと操業期間を短縮しています。

いよいよ解禁となりました。今漁期の豊漁と安全操業を祈念します。

日本海の冬の味覚、ズワイガニ(松葉ガニ)漁が、富山県から島根県までの1府6県で11月6日(月)に一齐に解禁となりました。

日本一の水揚げを誇る兵庫でも、JF但馬、JF浜坂所属の沖合底曳船49隻が次々に出港し、解禁の午前0時を待って一齐に網を投入しました。

初競りは同日午後から行われ、JF但馬柴山漁港では1匹1,088,880円の最高値を記録しました。また同港では「松葉ガニ初せりまつり」が開催され、観光客や地元住民らがセコ汁を味



地産地消で美味をアピール 摂播漁青連 今年も関学生協祭へ



関西学院大学生協祭に、今年も摂播磨地区漁協青壮年部連合会から大西正起会長ら役員ほか11名が参加し、兵庫の漁業や魚食文化などをPRしました。

出展した10月18日(水)は、フライヤーを持ち込み、タコの唐揚げ・タココロッケを販売し、唐揚げはお昼過ぎには完売するなど大人気。両品あわせ450食を完売し、過去最高の販売数となりました。

同漁青連は4年前から田和正孝同大学文学部教授(大輪田塾講師団顧問)のご配慮で、ゼミ生と消費流通の意見交換や魚食文化に関する情報発信など交流活

動を続けており、ゼミ生の皆さんもタコ釣り漁体験や漁協で魚の水揚げやセリ見学、調理などを通じて地域漁業への関心を深めています。また、同漁青連の活動には他の大学も教育的視点と地産地消文化の側面から大変関心を寄せられ、大学生協を通じてLove Sea井など兵庫県下の魚が学食で提供されています。漁業者自ら、生の声を学生達に伝える素晴らしい活動はこれからも続きます。



ときはいま コンサートパフォーマンスに明石市5漁協の組合長ら出演



11月3日(金)明石市の明石公園で「ときはいま 明石城人魚之巻」と題したピアノコンサートパフォーマンスが行われました。

この企画は「時と海」をテーマとした神戸新聞明石版の連載をまとめた書籍「あかし本」を原案とし、明石市生まれで欧州を中心に活動するピアニスト、牧村英里子さんによるピアノ演奏と演劇を組み合わせたもので、牧村さん演じる人魚がセリにかかるシーンでは明石市漁業組合連合会(会長・JF江井ヶ島 橋本幹也組合長)の5漁協の組合長が出演し、明石の漁業や海を演劇という新しい方法でPRされコンサートを盛り上げました。

(左から JF江井ヶ島:橋本幹也組合長、JF西二見:山本章等組合長、JF東二見:大西賀雄組合長、JF明石浦:戎本裕明組合長、JF林崎:田沼政男組合長)

(画像提供:アートコレクティブ「ときはいま」)

淡路水交会の「漁業者による森づくり」 ～淡路市立中田小学校児童も参加しての植樹活動～



丁寧に植えました



多くの人が参加しました

「豊かな海の再生に向けて、また、アオリイカ増殖に繋がる「森づくり」事業は、今後も淡路の各地で展開されていきます。

一般社団法人淡路水交会（東根 壽会長）が主催する「漁業者の森づくり」が11月7日（火）、淡路市の山林で行われ、ウバメガシ600本を植樹しました。

この活動は、漁業者がウバメガシや間伐材を使った「柴漬け」による産卵床の設置によりアオリイカなどの水産資源の増大を図る活動と、一般県民と力をあわせた漁業者の森づくり活動を連携して行い、環境保全と地域貢献を図るもので、今回で9回目となります。

当日は島内JF役員、漁青連、漁青連のほか、行政や系統団体、さらに淡路市立中田5・6年生児童28人を加えた175名が集合しました。参加者からは植樹手順の説明の後、苗木と土嚢に入った土を次々に運び込み、用意した苗木を植樹しました。また、児童らは、県洲本農林水産振興事務所担当者から説明を受け、森・川の関係についても学習しました。

「救命合羽」の販売開始 ～「浮力合羽」を改良し、桜マーク（型式承認）を取得～

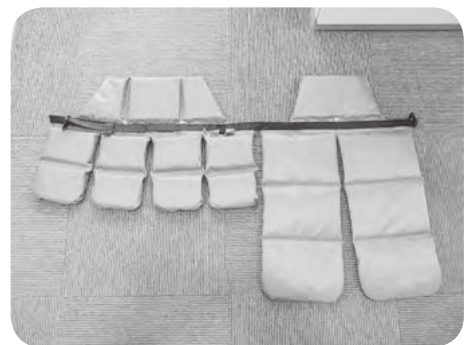
JF兵庫漁連は、漁業用合羽に浮力を持たせた「浮力合羽」を独自に開発し、平成24年より販売を開始し、これまで約3,000着を販売しております。これにより、複数の漁業者の命が救われたことは、本紙でも過去に掲載しています。（No678・No703・No715）

しかし、これまでの「浮力合羽」は救命胴衣としての桜マークを取得していないため、一人乗り漁船では普及推進出来ないなど多くの課題がありました。

しかし、小型船舶における救命胴衣の着用義務の範囲が拡大されることをうけ、桜マークの取得に向け、「浮力合羽」の利用者にもご協力いただきながら約1年間の試行錯誤を重ね、平成29年11月6日に型式承認を取得し、「救命合羽」として販売を開始されることになりました。

本商品は普及啓発を踏まえ、期間限定で特別価格にて販売され、更なる「作業性を損なわない救命胴衣」に向けた品質改良を行うため、多くの漁業者に着用いただき、多くのご意見・ご要望を頂戴したいと思っております。

「救命合羽」の購入申込・お問い合わせにつきましては、
JF兵庫漁連指導部（TEL：078-940-8013）
JF兵庫漁連資材部（TEL：078-942-9272）まで



大輪田塾だより

平成29年度大輪田塾修了式ならびに入塾式開催

第11期生6名が修了しました



修了生の記念撮影
(前列左から:小嶋さん、山崎さん、森さん、田沼県漁連会長、東根塾長、高木水産課長、高田さん、川本さん、長澤さん)

幅広い視野をもった将来の水産業界をリードしていく「浜のリーダー」を育てることを目標に、様々な研修・講義を行っている大輪田塾で修了・入塾式を執り行いました。今年10月24日(火)に兵庫県水産会館で、平成29年度大輪田塾修了式ならびに入塾式が行われ、11期生6名が修了するとともに、13期生となる新入塾生4名が入塾しました。

東根 壽塾長(兵庫県水産振興基金理事長)、泉水産課 高木 英男課長をはじめ、同塾運営委員、県・系統役職

修了生の紹介

氏名(期)	所属
長澤 良治 (11期生)	J F 姫路市
森 陽祐 (11期生)	J F 坊勢
小嶋 隆次 (11期生)	J F 室津
山崎 大輔 (11期生)	J F 淡路島岩屋
川本 洋 (11期生)	J F 但馬
高田佐王里 (11期生)	共水連兵庫県事務所

(敬称略・順不同)

員など約50名が出席するなか、修了式では、修了生が一人ずつ東根塾長から「修了証書を手渡された後、「決意の言葉」を述べました。その後、12期生 上田剛輝さん(J F 坊勢)からの「送る言葉」を受けた6名は決意を新たに修了しました。

続いて行われた入塾式では、新入生代表の吉岡力男さん(J F 但馬)が力強く「誓いの言葉」を述べたのち、12期生 福山貴久さん(J F 林崎)から歓迎の言葉が贈られました。式は、東根塾長の訓辞のあと、来賓の泉水産課 高木課長、J F 兵庫漁連 田沼政男会長から祝辞を頂き、終了しました。

このあと大輪田塾創設よりお世話になっている関西学院大学文学部 田和正孝教授による記念講演「兵庫県漁業の近代化〜地理歴史研究からはじめ〜」が行われました。兵庫県漁業の歴史に、塾生は熱心に聞き入っていました。

修了生のこれから活躍を祈念するとともに、新たに加わった13期生の塾での頑張りにも期待します。



入塾生の記念撮影
(前列左から:土井さん、布施さん、田沼県漁連会長、東根塾長、高木水産課長、吉岡さん、岡田さん)

入塾生の紹介

氏名	所属	漁業種類
布施 達也	J F 神戸市	漁協職員
土井 祐介	J F 明石浦	漁協職員
岡田 京大	J F 坊勢	船曳網漁業
吉岡 力男	J F 但馬	沖合底曳網漁業

(敬称略・順不同)

JA青壮年部 60周年記念交流会

兵庫県農協青壮年部協議会（県青協）は、11月2日、神戸市のラッセホールで60周年記念交流会を開き、歴代委員長を含め約100人が参加しました。

JA青壮年部は、全国で青年農業者による自主的な組織として設立され、本県では昭和29年頃から設立されました。そして、県内JA青壮年部を会員とする組織として県青協が32年に設立され、今年5月に設立60周年を迎えました。現在はJA兵庫六甲、JA兵庫南、JAたじま、JA丹波ささやまの4JAの、5組織、178人の盟友が加盟しています。

交流会では、植田博成委員長が「盟友の農業経営の向上、農業生産の拡大を第一の目標とし、あらゆる試みに挑戦していきます」とあいさつ。農業や青壮年部に対する提言等を発表する「JA青年の主張」では、「店舗リニューアルにつき生産者大募集」と題して発表したJA兵庫南青壮年部の福田修司さんが最優秀賞を受賞しました。青壮年組織の地域活動の実績を発表する「JA青壮年部活動実績発表」では、「地域とつながる僕らのエンジン—大きなことはできません。小さなことからコツコツと—“絆”」と題して発表したJA兵庫六甲西神戸農業経営者協議会玉津青年部の橋本晋也さんが最優秀賞を受賞しました。

福田さん、橋本さんは来年1月に開かれる近畿地区JA青年大会に兵庫県代表として出場します。



記念交流会であいさつをする植田委員長

<http://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/>

2017年度 兵庫県生協大会を開催

テーマ：協同が息づく兵庫のまちづくり

10月5日（木）、兵庫県民会館において2017年度 兵庫県生協大会を開催し、会員生協の組合員、役員や職員など235人が集いました。毎年10月～11月は「生協強化月間」。全国の生協では「活動や事業について知っていただき、生協の輪を広げる」催しを行っています。

第一部 記念式典は、主催者を代表して兵庫県生協連 木田克也 会長理事が挨拶。引き続き、ご来賓の兵庫県 井戸 敏三 知事よりご挨拶をいただき、表彰式では、長年にわたり生協の発展に寄与された2人の会員生協役員に生協功労者表彰として「兵庫県知事感謝」が贈られました。その後、神戸市、兵庫県議会より、それぞれ生協への期待がこめられたご祝辞をいただきました。また、生協業務に精励した24人の役員・職員に「兵庫県生活協同組合連合会会長表彰」が贈られ、会場からも大きな拍手が送られました。

第二部は、「今日もエコな風が吹く」と題して“環境”をテーマに「楽しいエコライフ」について、(有)ひのでやエコライフ研究所 鈴木 靖文 氏の講演とアコースティックデュオ にこいちによる演奏がありました。また、会員医療生協による「健康チェック」や「(公財)兵庫県健康財団」による健康づくりと疾病予防の取り組み、会員生協の環境の取り組み展示、ロビーでは「フェニックス共済」「兵庫労働共済生活協同組合」の共済紹介や「チームやんだくないS」による消費者トラブル防止啓発活動も行われ、多くの参加者でにぎわいました。



生協功労者表彰として「兵庫県知事感謝」が贈られました



講演 (有)ひのでやエコライフ研究所 鈴木 靖文 氏

<http://www.coop-hyogo-union.or.jp/>



旬に想う

写真と文
遊方子

柿の季節

◆ある紀行作家の著書に、どの地方にも共通する秋の風物詩は、民家の軒先に下がる干し柿だとあった。柿(カキ)は春の若葉も良く花も可愛く、青い果実も愛らしい。熟した柿色にも風情がある。中国を原産地としているが、文献は無くして詳細不明、カキノキ科カキノキ属の落葉樹。日本の風土に溶け込んで、秋の代表果実になっている。昔、戦争に脅えて疎開した父の里、家から少し離れた山の畑に大きなカキの樹数本があり、秋に撓わに実った。親らが畑で作業中、一人遊びしていた従兄弟のツトムが行方不明となり、村中総出で探した結果、近くの池に溺死体で見つかった。カキを見るとそんな哀しい思い出へ繋がる。

◆弥生時代の遺跡で、カキの炭化した種子が出た。また、カキ材を杭に利用した跡も発見され、弥生人にとってのカキは身近な存在だったようだ。果物として奈良時代の古書に記録が残っている。この頃、栽培柿が渡来し農家の重要な作物とされたらしい。百科便覧的な書物『延喜式』に記載があり、甘味資源として保存食品になったとある。カキは甘柿と渋柿に大別されるが、本来の柿は渋く、突然異変で甘いのが出来た。その経緯の詳細は判らない。次郎柿・禅寺丸・富有柿が知られる。甘柿は耐寒性に乏しく東北南部以北では育たないという。

◆子規の「柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺」は奈良の御所柿で、甘柿のルーツといわれている。渋柿が基本だから、脱渋方法も大むかしから色々と工夫された。塩や灰汁に浸けたり、焼いたり試行錯誤した。一般に知られる湯抜き法は江戸時代初期に案出され、風呂の湯に一晚浸けるといふ簡便なものだったが、果皮が剥けたり味が落ちる欠点がある。「樽抜き法」は酒の空樽を使い偶然に渋が抜けると判ったもので、アルコール法という名で広く用いられている。干し柿も渋抜きの一方法である。美濃のつるし柿、宇治の軈柿(ころがき)、信州で作られる市田柿、広島西条の串柿などが、晩秋の風物詩となって知られる。

◆明治時代、クレオソートなどの防腐剤が出るまでは、柿渋が塗料として重宝された。『粋な黒堀、見越しの松にくだな姿のお富さん』と流行歌にある黒堀がそれで、柿渋に灰墨を混ぜて板堀に塗った。漆と共に純国産の防腐剤で、民族的な事例として特筆できる。防腐・防湿・防虫の効果がある。ホルムアルデヒドによる化学物質過敏症には、柿渋は優しい塗料だよと、柿渋の老舗店主が語っていた。「桃栗三年柿八年」というが、タネを蒔いて八年目に花が咲いた。あれは事実を言っている。花の後、可愛く青い果実が無数に着き嬉しかった。



漁船が関係する衝突死亡事故が続いています!

神戸海上保安部航行安全課
からのお知らせ

本年10月と11月、漁船が関係する**衝突死亡事故が発生し3名**の方が亡くなられています。

10月14日に淡路島岩屋港内で漁船同士の衝突死亡事故が発生したほか11月6日にも大鳴戸橋の北方で漁船とプレジャーボートの衝突死亡事故が発生しています。



× : 事故発生位置

- ・航行中のみならず操業中も常時適切な見張りをお願いします。
- ・接近する船舶があれば早めの避航をお願いします。
- ・自身はもちろん、家族のためにもライフジャケットを着用して下さい。

海の安全情報 (沿岸域情報提供システム)

安全に関する情報は海の安全情報から入手できます!

スマートフォン用QRコード

